

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	大津市立瀬田南保育園
代表者氏名（管理者）	田村 みか
法人名	大津市
定員（利用人数）	60名（内利用人数48名。7年度当初。）
施設・事業所 所在地	滋賀県大津市三大寺1番3号
TEL	077-547-4222
FAX	077-545-8764
電子メール	Otsu1434@city.otsu.lg.jp
ホームページアドレス	<a href="https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/015/hoikuen/1448/1468976749361.html">https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/015/hoikuen/1448/1468976749361.html</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
評価実施期間	令和7年12月8日・12月9日

### 3 評価の概要

#### ○ 総合評価

大津市立瀬田南保育園は、滋賀県の南部に位置していて近くに琵琶湖があり、晴れた日は琵琶湖の対岸の山々も美しく、とても環境が良い場所にあります。

園舎は広くて清潔感があります。園庭も広く園児が身体を動かして遊ぶには十分な広さが確保されています。近くの小学校の敷地と隣接している雑木林に遊びに行くこともでき、近くに自然を感じることができる場所が沢山あります。“みなみっこひろば”と総称される幼保一体型の子育て支援拠点として、保護者の多様な職業ニーズや家庭環境に応えることができます。また、幼保一体型の利点として、それぞれの良い点を学びあい、幼稚園保育園の枠を超えて子どもの姿を共有し合い、一人一人の子ども理解に努め助け合って生活しています。特に、災害時の防災基準は幼稚園が保育園の基準に準じて合わせる形を取り、幼稚園の子どもも保育園の子どもと同じ大切な”みなみっこひろばの子”として命や怪我に差異が無いように配慮しました。

瀬田南保育園は、大津市南部の基幹保育園としての機能を担っており、地域の様々な子育てニーズや家庭環境に準じて対応する必要があります。時に、管理職は重要なケースを扱うことがありますが、関係する保育者や職員が一体となって支えあい助け合って保育を進めています。特に幼保一体型施設として職員連携等が密に行われるよう、普段から保育園と幼稚園の各園長と副園長に相当する各園の責任者主任、代表保育士4人が職員室の一角にデスクを並べ、日々顔を合わせ、”小さな違いが大きな相違”に発展しないように配慮しています。同じ場所には防犯カメラのモニターがあり、いつでも子どもたちや園庭や周辺の変化に気付くことができるように工夫しています。それら小さな工夫を積み重ねている結果として、高いチーム力が形成され、職員が主体性を持って積極的に職務に従事しています。それぞれの園の子どもたちが園舎を共有して使用していることから、園児同士は互いに接する機会が多くあります。そのため、子ども同士の交流の機会を多く持つように保育を計画し、特に安全面の配慮など、細かい打ち合わせが行われています。その結果として保護者もそして園児も安心して日々を過ごすことができます。

#### ○ 特に評価の高い点

「み～つけた！やってみたい！心いっぱい感じよう。」をテーマに取り組む保育環境

瀬田南保育園として、最も自信を持って取り組んでいる点のひとつは、「み～つけた！やってみたい！心いっぱい感じよう。」をテーマに保育に取り組んでいることです。常にプラス（肯定的）な言葉をかけることを意識し子どもの思いに寄り添い、認め、一人一人の子どものステキ探しを園全体で行っています。3歳から5歳の3年計画で成長を見守り、自分を発信する場所として大事にされる、受け止めてもらえると感じてもらえる保育を全職員が目指しています。園児の内面や内に秘めている想いを感じ捉えるように支援し個別に表出しているサインを見逃さずどんな気持ちを持っているかを汲み取るように意識し、信頼関係を構築するように努めています。

年齢に合わせ「ジブンで！」（自分らしく）を大切に、「（自分で）やったできた！と思えること」を大事にする、そんな素敵な保育が展開されています。自分でできた（達成感・成功体験）を積み重ねることで自信をつけていくことを全保育士が目標にしており、関係者みんなが一緒に喜ぶそんな保育園にしたいと願いながら日々の保育を行っています。そういう3年間を積み重ねていくと生活と遊びを密着していき、実体験から遊びにつながっていくようになります。収穫したものをクッキングで調理して食べる経験が、後日子ども自ら遊びの場でごっこ遊び（〇〇屋さん）につながっていくという姿が増えていきます。保育者が「やりましょう」ではなく、子どもたちがやりたくなる環境を整えていることが、子どもたちの成長につながり、自主性を持って小学校生活へ移行することが可能になっています。

## 「保護者と共に子育てを」

近年、家庭での児童の養育環境は全国的にも困難になる傾向にあります。そのような状況の中、子どもたちに一番近い担任はもちろん、園長や代表保育士、地域担当保育士を中心に日々子どもたちの様子を観察し、変化を見逃さないように注視しています。園児にとって園が安心して過ごせる場である、大人への信頼を向けられる、といった関係性を大切に日々の活動を見守っています。子どもの行動の裏側にある情景を検証し、理解を深め、良くない行動・言動があっても「ダメ」と言い切るのではなく、その子どもが困っているサインを出しているのかも知れないと理解するよう努めています。困難ケースに関しては管理職を含め複数で対応する、などルール化し必要に応じて園長が直接対応するなど慎重に対応しています。

常に保護者と園児の架け橋役となり、保護者の変化、園児のサインを見逃さないようにしています。必要な時には専門支援機関と連携して対応しています。

## ○ 改善を求められる点

### 「園児の目線、高さの安全性の確保」

園の施設全体として“荷物が多い”という様子（印象）が散見されました。保育園として、制作物や行事で使用する道具が増えていく傾向にあるのは仕方ないことです。しかし、万が一の事を考えると、廊下に荷物が多いことは、災害が起きて実際に逃げる時に危ないというリスクがあります。

建物の渡り廊下の横にタイヤやプラスチックケースが積みあがっていますが、子どもたちが上って崩れた時には大きな怪我につながる可能性があります。また、ゴミのポリバケツも子どもの手がすぐに届く場所にあり、第三者として見ると雑然としているように見えましたし、衛生面から見ても不安が残ります。

今後は、不要な荷物を廃棄し、荷物や業務上必要な機材は、その場所に子どもたちが入れないようにする明確な工夫（カーポートのアコーディオンゲートやスライドゲートを設置するなど）や、倉庫を整備して収納するなど具体的な対策が求められます。

### 「マニュアル類の再整備・点検」

保育園の運営に必要なマニュアル類（手引き・ガイドラインを含む）がすぐに効力を発揮できる状態になっているか確認する必要を感じました。マニュアルや手引き類を最新の情報に更新し、一箇所（ファイル）にまとめ、目次や目録などを付けて誰が見てもわかりやすい指標（一冊）となる状態を推奨します。具体的にはプライバシー保護規定マニュアルを独立させ、それに基づいたプライバシー保護書類の管理ができるよう整備することが望ましいと言えます。また、有事の職務権限移譲のフローチャートを作成し、大津市の管理担当課も含め、管理職が不在の時に正規職員・会計年度職員がどのように動くことになるのかを、上下の矢印でフローチャートを作成し指示系統をはっきりさせることが望まれます。それを火災通報装置や防災関係の情報が集約されている場所に張り出し、平時でも確認できるようにしておくことが、有事に備えることにつながるでしょう。

## 「ライフワークバランスの推進」

保育の現場に限らず、人手不足がどの業界でも課題であることは周知の事実です。しかし、そのような中でも、子どもの保育の質の低下に影響がない範囲で業務を簡素化し、働きやすい、復職しやすい環境を整備していく必要があるでしょう。今後、世代交代していく時期を見据え、中堅の育成、新人が魅力を持って将来設計できる環境を整備することは喫緊の課題だと思われます。特に、今の若手世代は、既に”働き方”を意識して働いている世代です。時代背景に沿った働き方、運営管理の省力化・効率化は保育園単体としても改革していくことはできると思われます。中長期計画で保育園の未来を描いたときに、園児や保護者の安心感や満足感としての魅力だけでなく、職員の働きやすさとしても魅力的な保育園であることを期待します。

### 4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

保育テーマ「み～つけた！やってみたい！心いっぱい感じよう」を掲げて取り組んできました。園の職員全員で、子どもたちの内面の理解に努め、子どもたちの姿を常に肯定的にとらえる中、心が動く実体験を積み重ねてきたことで子どもたちが自分で考えたり、主体的に行動できるようになったりしてきたことを感じることができました。今回、そのことを評価していただいたことは職員の励みになりました。

また、園舎周り・園内の廊下の環境、マニュアルの再整備については改善策を職員で協議を進めているところです。危機管理の意識を高く持てるよう日々、危険な個所の点検、共有、確認を行っています。外部から見ていただいた時の注意するところを聞かせていただき、細かく確認し改善をしていかなければいけないと気づかせいただきました。これからもより一層安全な保育園運営に努めていきます。

職員のワークライフバランスの実現を目指すことが、質の高い保育につながっていくと考え、職場環境の改善、人材育成の工夫なども行っていきたいと思います。

今後も職員間で学びを深めながら、保護者の方とともに子どもの成長を喜び合える保育園となるよう全職員で保育を進めていきます。